

2023年度
3年生 前期シラバス
(看護学科)

実の力を、学ぶ学校



学校法人
日翔学園

高知開成専門学校

<シラバス>

授業科目	老年看護学実習 I	授業方法	実習	単位	2単位
開講時期	3年次前期	担当講師	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を総合的に理解する。(死生観、生きがいなど含む) 2. 老年期にある対象とその家族の関係を把握し、理解する。 3. 健康上の課題を持つ高齢者を受け持ち、看護過程が展開できる。 4. 高齢者の意思を尊重し、尊厳を守るような態度が身につく。 5. 老年期の発達段階を踏まえ、個別性を考えた看護援助を理解する。 				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・生理的反応、および心理的側面、社会的役割の変化を理解する。 2. 障害を持つ高齢者の身体的、精神的、社会的な側面を理解できる。 3. 高齢者の身体的・精神的・社会的状況や生活機能をアセスメントし、個別性をとらえ 4. 高齢者とその家族の状況を理解し、援助の必要性について理解する。 5. 高齢者への共感的態度を示し、尊厳を守り、適切な言動をもって、倫理的配慮で接する。 				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】 <2単位 90時間 12日間> 1グループ5～6名にて編成する。 学内実習：事前・事後各1日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち利用者を1名受け持つ。利用者の生活機能と全体像を把握し、利用者の課題を抽出する。ケアマネジャーの立案したケアプランとの整合性を思考できる。 2. 受け持ち利用者が在宅機能の施設でどのように生活を再構築し暮らしているのか、その状況を思考し、看護の視点で支援を行う。 3. 受け持ち患者の生きてきた道を年表にまとめ、生きてこられた人生を理解し、その人らしい援助方法について思考する。 <p>事前学習(学内および個人)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年期の身体的、心理的、社会的特徴について 2 保健福祉医療制度や介護保険の仕組みと運用につて 3 認知症の症状や行動障害とその対応について 4 既習学習の見直し <p>*カンファレンスについて 臨地実習中にショートカンファレンス、ケースカンファレンス、中間カンファレンス、最終カンファレンスを行う。ショートカンファレンス、ケースカンファレンスは教員と学生で行う。中間カンファレンス、最終カンファレンスは臨地実習指導者、教員、学生で行う。カンファレンスのテーマは、前もって臨床指導者、教員に連絡しておく。また、運営は、学生が主体となって行う。</p> <p>グループワークおよび個人面接を行う。文献検索を行い、受け持ち利用者の病態や老人看護についての知識・技術を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.事前オリエンテーション：施設での留意事項などの再確認、グループワーク、受け持ち患者の病態などを含む事前学習 2.受け持ち利用者の全体像を把握し、解決すべき課題を抽出する。 				
授業方法					
テキスト・参考文献	老年看護学、看護過程論で使用したテキストなど				
評価方法	評価表をもとに実習内容、記録、自己学習、実習態度を総合して評価する。				
備考					

<シラバス>

授業科目	老年看護学実習Ⅱ	授業方法	実習	単位	2単位
開講時期	3年次前期	担当講師	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴って起こる疾病・障害を理解し、受け持ち患者に対して援助技術を工夫した看護過程が展開できる。 2. 高齢者とその家族の関係を把握し、高齢者を持つ家族の問題を理解する。 3. 高齢者の意思を尊重し、尊厳を守った対応ができる。 4. 高齢者の自然体としての人生の終末期の特徴を理解する。 5. 高齢者に必要な社会資源について理解する。 				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・生理的反応、および心理的側面、社会的役割の変化を理解する。 2. 障害を持つ高齢者の身体的、精神的、社会的側面を理解できる。 3. 高齢者の身体的・精神的・社会的状況や生活機能をアセスメントし、個性性をとらえ日常生活援助を工夫した看護過程の展開ができる。できれば、退院に向けての予測的問題に取り組み計画できる。 4. 高齢者とその家族の状況を理解し、必要な援助が理解できる。 5. 高齢者への共感的態度を示し、尊厳を守り、適切な言動をもって、倫理的配慮で接する。 6. 退院に向けての援助やチーム医療の必要性について理解する。 7. 高齢者の社会保障や対象に必要な保健福祉医療制度、社会資源について理解する。 8. 終末期にある対象とその家族に対する看護援助のあり方を理解する。 9. 老年看護の役割を考察し、自己の老年看護観を明らかにする。 				
授業計画	<p><2単位 90時間 12日間> 1グループ5～6名にて編成する。 学内実習:事前・事後各1日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者を1名受け持ち、情報収集する。課題を抽出し、看護計画を立案し、看護過程を展開する。また、患者だけでなく家族に生じる問題も把握し、生活機能低下や合併症の予防、退院後の生活に視点を持った援助を考える。 2. 看護過程は、目標指向型とする。受け持ち患者の強みを抽出し、これを活かして、患者が望む生活を実現できるための看護計画を立案する。 3. 老年期の身体的・精神的・社会的変化と疾病や障害による変化をアセスメントし、適切な看護ケアを考える。 <p>*カンファレンスについて 臨地実習中にショートカンファレンス、ケースカンファレンス、中間カンファレンス、最終カンファレンスを行う。ショートカンファレンス、ケースカンファレンスは教員と学生で行う。中間カンファレンス、最終カンファレンスは臨地実習指導者、教員、学生で行う。カンファレンスのテーマは、前もって臨床指導者、教員に連絡しておく。また、運営は、学生が主体となって行う。ショートカンファレンス:臨地実習を通して、体験や実践したことの意味を見出す。</p>				
授業方法					
テキスト・参考文献	老年看護学、看護過程論で使用したテキストなど				
評価方法	評価表をもとに実習内容、記録、事前学習、実習態度を総合して評価する。				
備考					

<シラバス>

授業科目	小児看護学実習	授業方法	実習	単位	2単位
開講時期	3年次前期	担当講師	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	小児各期の成長発達を理解し、健康もしくは健康を障害された子どもとその家族に対して看護を実践できる基礎的能力を養う。				
学習目標	1. 健康な乳幼児期の成長発達過程に応じた保育について理解する。 2. 健康障害をもつ子どもの成長発達に及ぼす影響を最小限にするために必要な援助を理解する。 3. 健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を実践する。 4. 日常生活における子どもの安全を守ることができる。 5. 保健医療福祉チームにおける連携の必要性を理解する。				
授 業 計 画	【実習内容・実習方法】 <2単位 90時間 12日間> 学内実習：各施設ごとに実習前・後に0.5日実施 幼稚園(2日間) <ol style="list-style-type: none"> 幼稚園での園児の活動を観察し、一般的な成長発達と比較する <ul style="list-style-type: none"> 乳児から5歳児までの各クラスに2～3名入り、幼稚園教諭および保育士の指導・監督のもと行動する 幼稚園教諭および保育士の園児への成長発達に応じたかかわり方を観察する 園児の行動を観察する 観察した結果を一般的な成長発達と比較し、アセスメントする アセスメントの際には、形態的、機能的、運動機能的、心理・社会的発達を踏まえて行う 発達課題 乳幼児期の成長発達に応じた遊びを指導のもとに実践する <ul style="list-style-type: none"> 成長発達を促すための遊びを幼稚園教諭・保育士の指導のもとに見学および一部実践する 遊びの意義、種類、遊具の選択、遊びの状況など 園児の理解度に応じた対応をする 具体的な園児の行動を表現する 安全を守るために環境を整えることができる <ul style="list-style-type: none"> 環境、関わり方、事故防止・感染予防対策など 				
	外来:(4日間) <ol style="list-style-type: none"> 小児科外来の特殊性を学び、子どもの健康管理の実際を知る <ul style="list-style-type: none"> 受診している子どもおよび家族に同意を得て受診を共にし、受診の目的、子ども・かぞくが小児外来看護に求めるものを知り、看護の必要性、役割について考察できる 子どもおよび家族の不安や心配事への対応にあたっている臨地指導者やスタッフから、説明の方法やコミュニケーション技術を学び、表現できる 診療の補助の一部が実践できる。 <ul style="list-style-type: none"> 身体、四肢、頭部の固定方法を学ぶ 検査データの結果の考察ができる 外来看護の役割について考察できる 				
授 業 計 画	病棟:(4日間) <ol style="list-style-type: none"> 1名の子どもの受け持ち、看護過程の展開を行う。 <ul style="list-style-type: none"> その子どもについてアセスメントし対象の理解をする 子どもにあわせたコミュニケーション方法を選択し、援助関係を形成できる 子どもの成長発達、健康障害、健康段階、入院・治療に基づき根拠を明確にして解釈・分析できる 具体的で実現可能な援助計画を立案する 入院が子どもや家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を実践する 日常生活における子どもの安全を守ることができる <ul style="list-style-type: none"> 病棟の構造、設備、特殊性、防災対策について観察し、考案する ベッドおよび病室などを安全な環境に整える 受け持ちの子ども以外にも目を向け、小児看護のあり方を学ぶ 治療や日常生活における危険行動を予測し安全を守るための行動をとる スタンダードプリコーションを実践する 実践したことを適時報告して、子どもの安全を守る 保健医療福祉チームにおける連携の必要性を踏まえ、看護の役割を理解する <ul style="list-style-type: none"> 保健医療福祉チームの連携の必要性をカンファレンスや記録において表現する 子どもおよび家族への継続した看護の必要性を表現する 小児看護における看護の役割について表現する 				
	評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後のレポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。			
備考					

<シラバス>

授業科目	母性看護学実習	授業方法	実習	単位	2単位
開講時期	3年次前期	担当講師	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に必要な看護が提供できるための基礎的能力を養う。ライフステージにおける女性の健康と健康障害について理解する。				
学習目標	<p><妊娠期> 1. 妊婦の生理的な経過および心理的・社会的な変化が理解できる。 2. 妊娠経過を把握し、健康診査が理解できる。 3. 妊婦に対する保健指導の目的と重要性が理解できる。</p> <p><分娩期> 1. 分娩経過とそれに伴う産婦の生理的変化が理解でき、述べることができる。 2. 正常な分娩経過をたどる産婦に必要な看護が述べられる。 3. 産婦の出産過程を通して、生命の誕生や生命の尊厳について考えることができる。</p> <p><産褥期> 1. 褥婦の援助に必要な情報を収集し理解できる。 2. 褥婦の正常な経過がわかり、性器および全身の復古への援助ができる。 3. 泌乳機能促進の援助ができる。 4. 母子関係成立への援助ができる。(育児技術獲得への援助など) 5. 新しい家族を迎える家族の適応について考えることができる。 6. 地域における母子保健活動について理解できる。</p> <p><新生児期> 1. 新生児の観察から健康状態のアセスメントができる。 2. 新生児の日常生活への看護ができる。</p> <p><ライフステージにある女性の健康障害について> 1. 思春期・成熟期・更年期・老年期の主な健康障害の主訴、症状について理解できる。 2. 婦人科外来における主な処置、治療、検査が理解できる。</p>				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】 <2単位 90時間 12日間> 1グループ5～6名にて編成する。 学内実習：事前・事後各1日</p> <p>① 原則として、妊産婦患者を1名受け持つ。 ② 受け持ち患者の情報収集・分析・看護計画立案・計画の実施と評価をし、患者の回復過程に応じた計画の修正と追加を行い、看護過程を展開する。また受け持ち患者の出産を見学し、理解を深める。</p> <p>事前学習(学内および個人)</p> <ol style="list-style-type: none"> 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的、心理的特徴 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な主な検査、保健指導とケア 性周期とホルモンの作用、各ライフステージと発達課題 ベビー人形での沐浴演習(おむつ交換、寝衣交換) レオポルド触診法、子宮底長、腹囲計測演習 母子健康手帳について カンガルーケア、バルトグラム 技術チェック表、経験項目の学習 <p>* 実習中の経験項目(以下の項目について、経験をすること) 妊婦の健康診査 : ①母子健康手の活用 ②妊産婦保健指導 ③レオポルド触診法 ④子宮底長測定 ⑤内診の介助 産婦の観察・指導 : ①補助動作・呼吸法などの産痛緩和 ②陣痛測定・分娩の進行状態 ③バルトグラムの活用 ④カンガルーケア 褥婦の観察・指導 : ①悪露交換 ②乳房マッサージと授乳指導 ③産褥体操 ④退院指導 ⑤家族計画指導(見学) 新生児の看護 : ①バイタルサイン測定 ②沐浴 ③おむつ交換・寝衣交換 ④授乳・哺乳方法 ⑤黄疸測定 ⑥身体計測 集団健康教育 : ①母親学級・父親学級</p>				
テキスト・参考文献	母性看護学で使用したテキストなど				
評価方法	評価表をもとに実習内容、記録、事前学習、実習態度を総合して評価する。				
備考					

<シラバス>

授業科目	精神看護学実習	授業方法	実習	単位	2単位
開講時期	3年次前期	担当講師	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	精神に障害を持つ人の特徴や治療過程を理解し、社会参加に向けての個別的な看護が実践できる能力を身につける。				
学習目標	1. 精神に障害を持つ人を多面的に理解する。 2. 患者－看護師の関わりを通して精神に障害を持つ人とのコミュニケーション技法を学 3. 対人関係的関わりを通して日常生活援助過程を学び実践する。 4. 精神科病院と一般科病院との違い(チーム医療、看護師の役割、構造上の特徴と治療目的・効果・弊害等)を理解する。 5. 入院患者の退院にむけて社会参加への取り組みや社会資源の活用について学ぶ。 6. 精神科救急を含めた精神医療の現状を理解する。 7. 精神的健康の意味を理解する。 8. 精神保健福祉法に基づいて、人権尊重に配慮された精神科医療が行われていることを理解する。				
授 業 計 画	<p>【実習内容・実習方法】 <2単位 90時間 12日間> 1グループ5～6名にて編成する。 学内実習:事前・事後各1日 ①原則として、患者を一名受け持つ。 ②受け持ち患者の情報収集・分析・看護計画立案・計画の実施と評価をし、患者の回復過程に応じた計画の修正と追加を行い、看護過程を展開する。 ③②について、適宜、所定の記録用紙に記録する。</p> <p>事前学習(学内および個人) 統合失調症と気分障害の病態、薬物(作用、副作用)、看護について 各疾患A4サイズ2枚以上</p> <p>* 病棟レクリエーションは、2週目に実施 * 閉鎖病棟への出入り時のドア開閉は速やかに行う。患者の病棟の出入りは、学生の判断で行ってはいけない。 * 危険物は(はさみ、カッター、針、ひも類など)、病棟に持ち込まない。 必要時は、実習指導者に相談する。 * 危険物を取り扱うときは、十分に注意し、所定の位置へ返却するまで責任をもって行う。</p> <p>* 患者へのかかわりの原則 ①相手が話しかけたくなる位置に身を置き、そばにいて、そのまま黙っている。 ②患者に十分に関心に向け、患者の言語・非言語にうなずき、支持し、患者の反応が何を意味しているのか積極的に考える。 ③感情を言葉にして表現できるように支える。 ④患者をあるがままに受け入れる。 ⑤一貫した態度を示す。 ⑥実感を大事にする。 ⑦相手にもたらす影響を知り、自己活用する自分を活かす。</p>				
テキスト・参考文献					
評価方法	評価表をもとに実習内容、記録、自己学習の程度、実習態度を総合して評価する。				
備考					

<シラバス>

授業科目	在宅看護論実習	授業方法	実習	単位	2単位
開講時期	2年次後期～3年次前期	担当講師	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	在宅(地域)看護の対象者(本人・家族)のニーズおよび生活特性を理解し、対象者の健康保持・増進、疾病予防、QOLの維持・向上した生活の拡大、自立に向けての看護活動の役割や特徴を学ぶ。また、地域住民とのふれあいの中での体験や実感を通して保健・医療・福祉の連携体制の理解を深めるとともに看護が展開できる能力と態度を養う。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々とその家族の健康上の課題を理解し、健康回復・維持・増進・予防への援助方法を学ぶ。 2. 地域で暮らす人々を「生活者」と捉え、生活の中での支援活動の実際を学ぶ。 3. 地域で暮らす人々と家族の意思を尊重した支援方法を学ぶ。 4. 他職種との役割・機能を理解し、在宅看護の調整的役割の重要性を理解する。 5. 対象者の健康課題をアセスメントし、解決するための援助方法を考えることができる。 6. 看護の継続性や社会資源活用システム、医療・福祉機関との連携について理解する。 7. 在宅ターミナルケアにおける療養者と家族を支える支援体制の実際や看護の役割について理解する。 				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】</p> <p><2単位 90時間 12日間></p> <p>学内実習:各施設ごとに事前・事後0.5日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーション(3日間) <ol style="list-style-type: none"> 1グループ1～2名で編成する。 1) 同行訪問した対象者の中から、1例を取り上げ、在宅療養者とその家族が療養生活上の課題に対して、訪問看護師がどのように把握し、判断し、援助計画を考え実施していたかを記録する。 2) 同行訪問した対象者を通して、感じたことや学んだことを記録する。 3) 実習期間中に同行訪問した対象者の中から、1名を取り上げ、看護計画立案までを完成させる。可能であれば、計画した一部を受け持ち看護師と一緒に実施する。 4) 実施した援助を評価する。 5) 訪問看護ステーションでの自己の学びを表現する。 6) 今後の自己課題について述べる。 2. 介護老人保健施設ショートステイ利用者(2日間) <ol style="list-style-type: none"> 1グループ2～3名にて編成する。 オリエンテーション、事前学習:学内、臨地 1) 原則として、利用者(ショートステイ)を1名受け持つ。 2) 受け持ち利用者の情報収集をし、全体像をとらえ在宅での生活が継続できるための支援について考える。 3) レスパイトケアについて考察する。 3. 介護老人保健施設通所リハビリテーション(3日間) <ol style="list-style-type: none"> 1グループ2～3名にて編成する。 オリエンテーション、事前学習:学内、臨地 1) 通所リハビリテーションで行われている事業内容を理解する。 2) 送迎の同行をし、送迎時に必要な留意事項や家族との関係性について考察する。 3) 実施されているプログラムの目的を理解する。 4) レクリエーションの企画、実施をする。 5) 通所リハビリテーションでの看護の役割について考察する。 6) 利用者の中から1名選択し、情報収集し、全体像をとらえる。 4. 社会福祉協議会(1日) <ol style="list-style-type: none"> 1グループ3～4名編成とする。 オリエンテーション、事前学習:学内、臨地 社会福祉協議会における地域活動の実際を学び、地域住民とその家族に果たす役割・機能について理解する。 ① 社会福祉協議会で実施されている事業の概要を理解する。 ② 実施されている事業が、地域住民にどのような役割を担っているのか考察する。 ③ 社会福祉協議会の果たす役割から高知県における活動ビジョンを知る。 ④ ふれあいまちづくり事業に参加し、地域で安心して暮らすための支援が住民の健康の保持増進にもたらす役割を考察する。 5. 地域包括支援センター(1日) <ol style="list-style-type: none"> 1グループ1～2名で編成 オリエンテーション、事前学習:学内、臨地 地域包括支援センターの地域における活動の実際を学び、地域高齢者とその家族へ果たす役割・機能を理解する。 ① 地域包括支援センターの運営・機能・役割を学ぶ。 ② 地域包括支援センターが支援を行う対象を理解する。 ③ 地域包括支援センターの利用者のニーズを知る。 ④ 地域包括支援センターにおける保健・医療・福祉サービスの実際を学ぶ。事業の中で看護師が担う役割について考察する。 				
	評価方法	評価表をもとに実習内容、記録、事前学習、実習態度を総合して評価する。			
備考					